

大森まちなか図書館

Oomori Town Library

木内公一郎

(地域文化学科)

キーワード：大森まちなか図書館、まちライブラリー、図書館づくり

1. はじめに

島根県立大学は 2022 年 9 月に世界遺産石見銀山が所在する島根県大田市大森町に図書館を含む新たな研究拠点施設を開設する予定である。本稿は図書館の開設準備（基本設計）に関わった図書館情報学研究室の研究活動について報告する。

2. 大森まちなか図書館計画の概要

大森町の古民家「旧松原邸」を改築し、図書館、ラーニングコモンズ、カフェ、コワーキングスペース（レンタルオフィス）を設置する。運営の中心は島根県立大学である。さらに中村ブレイス株式会社（所有者）、群言堂（カフェの運営）、石見銀山資料館（コワーキングスペースの運営）など地元企業や団体が協力して運営する。

そして大学の教育研究施設として石見銀山の研究進展、さらに観光客、市民、学生が交流する場所として機能することが期待されている。図書館業務には本学 3 キャンパス（松江、出雲、浜田）の学生がボランティアとして参加する予定である。

3. 研究室の活動

表 1 は 2020 年から 2021 年に実施された研究活動の概要である。以下その詳細を説明する。

1) 調査の方法と調査活動

2018 年度入学のゼミ学生 6 名を「大森町調査チーム」「観光と図書館チーム」の 3 名ずつの 2 チームを作り、文献調査を実施した（表 1①）。前者は大森町を含む大田市の概要調査を担った。定量的な情報に基づいて、大森町の現状を客観的に把握することが目的である。調査項目は人口構成、観光、学校教育、社会教育（図書館・博物館）、書店、読書支援活動である。

後者は大森町の主要産業である観光と図書館の関係性を明らかにすること、さらに大森まちなか図書館サービスの構想を考察することが目的である。

表 1 研究活動の概要

期間	調査の内容
①2020年6月～7月	文献調査 「大森町調査チーム」（市と町の概要・観光・読書環境） 「観光と図書館チーム」（先行研究調査）
②2020年9月27日	大森町訪問調査（1日） 松原家住宅内部調査 街並み地区観察調査 調査の目的「大森町に相応しい図書館とは何か」
③2020年10月前半	調査レポート作成 訪問調査の振り返り 大森町のイメージと情報の共有
④2020年10月後半	事例調査 コンセプト案作成
⑤2021年11月	①大田市立図書館の蔵書構成およびサービスの現状に関する調査 ②大森町および松原邸観察調査 松原邸並びに周辺地域の観察調査（町並み、古民家を利用した他の店舗の様子、住民や観光客など人の流れ）を通じて「大森まちなか図書館」の蔵書の構成並びにサービスのあり方について考察する。
⑥2021年11月～12月	大森まちなか図書館資料収集方針案作成・提案

そして9月には大森町を初めて訪問し、観察調査を実施した。（表1②）調査の目的は「大森町に相応しい図書館とは何か」を定性的な情報に基づいて考察することが目的である。一般的に新しい公共政策やサービスを構築する際には住民に対する聞き取り調査や質問紙調査が実施される。この方法はその政策に対して期待値が高い場合は有効である。しかし公共図書館には「貸出」「図書」などのイメージしか持てず、回答から住民のニーズを発掘するこ

図1 旧松原邸調査の様子（筆者撮影）



訪問した9月27日午前中に「旧松原邸」を調査し、午後は旧松原邸周辺の観察調査をおこなった。

とが難しい。結果として地域の個性が反映されない図書館ができてしまう可能性がある。そこで、図書館情報学研究室として、まち歩きしながら地域の特徴や雰囲気、市民や観光客の様子、旧松原邸周辺の人の流れなどの定性情報を集め、定量情報と併せて、コンセプトやサービスを導き出すという方法を採用した。

2) 調査情報の共有

秋学期は調査レポート（個人）の提出、大森町の情報をゼミ内で共有し、意見交換を行なった。（表③）

方法としては大森町のイメージを表現するキーワードを付箋1枚につき1個書き出し、ホワ

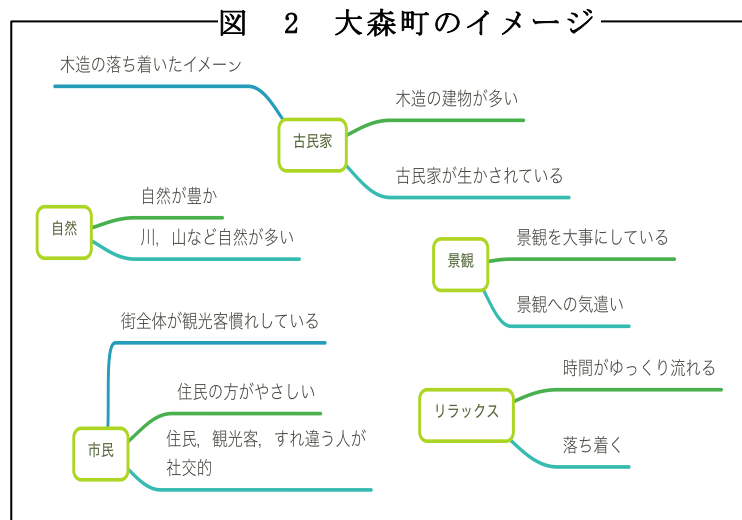
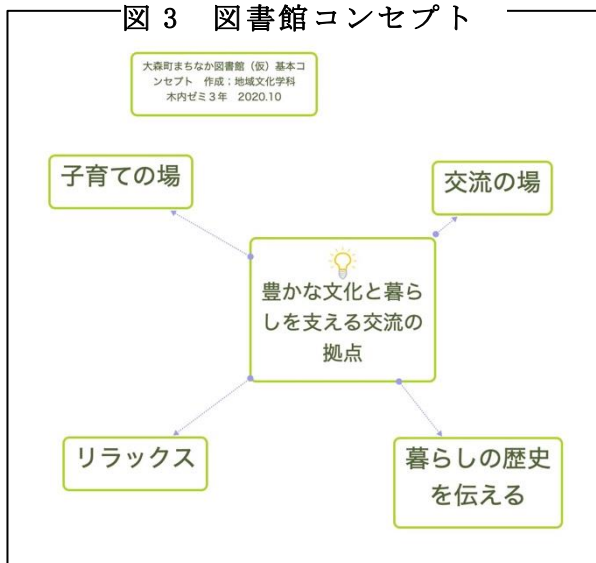


図3 図書館コンセプト



イトボードに貼り付ける。その後グルーピングして5つのカテゴリーを抽出した。（図2参照）

3) 図書館コンセプトの策定

図書館コンセプトとは、誰（利用者）に対して何を提供するのか、どのような機能を持たせるのかをシンプルに表現したものである。図書館業務の枠組みを規定し、サービスや蔵書構成の指針となる重要な文書である。

策定方法としては学生が調査・考察したサービスや業務を付箋に書き出し、グルーピングをおこなった。(図3参照)最終的にメインコンセプトと4つのサブコンセプトで構成されるコンセプトマップを策定した。メインコンセプトの「豊かな文化と暮らしを支える交流の拠点」は豊かな歴史と文化をもつ大森町への敬意と発展への貢献という願いが込められている。そしてメインコンセプトを実現するために「子育ての場」「交流の場」「リラックス」「暮らしの歴史を伝える」という4つのサブコンセプト(機能)を配置した。

図 4 子育ての場

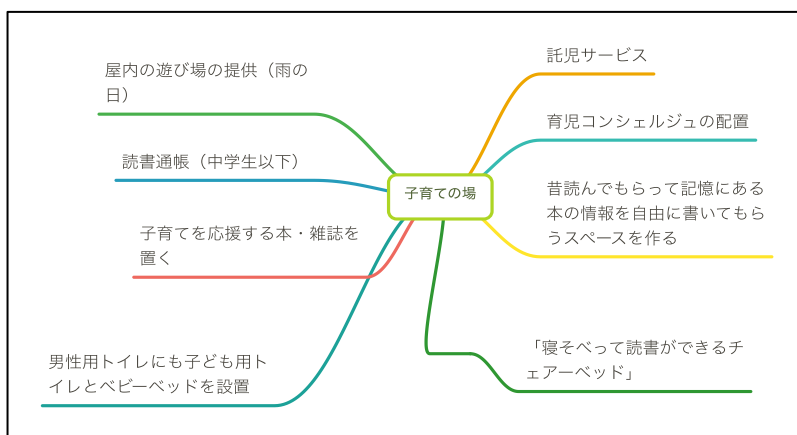


図 5 交流の場

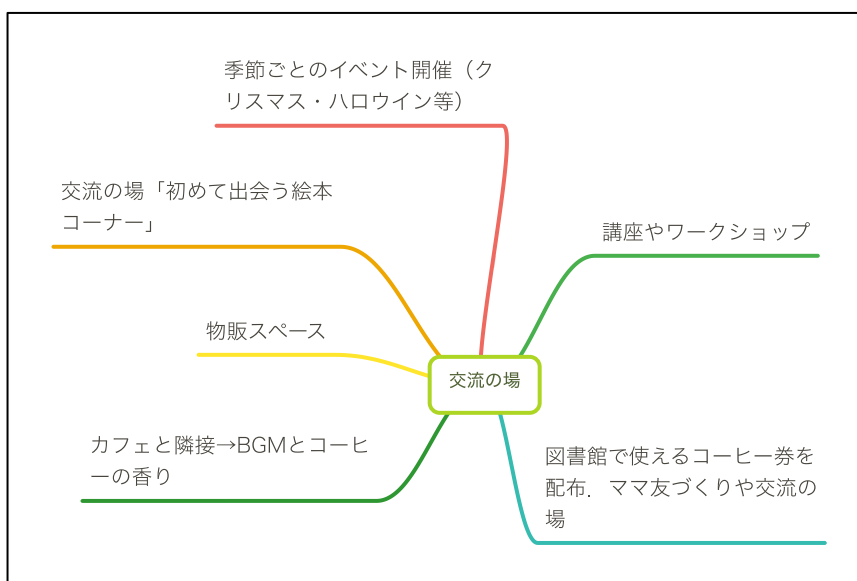


図 6 暮らしの歴史を伝える

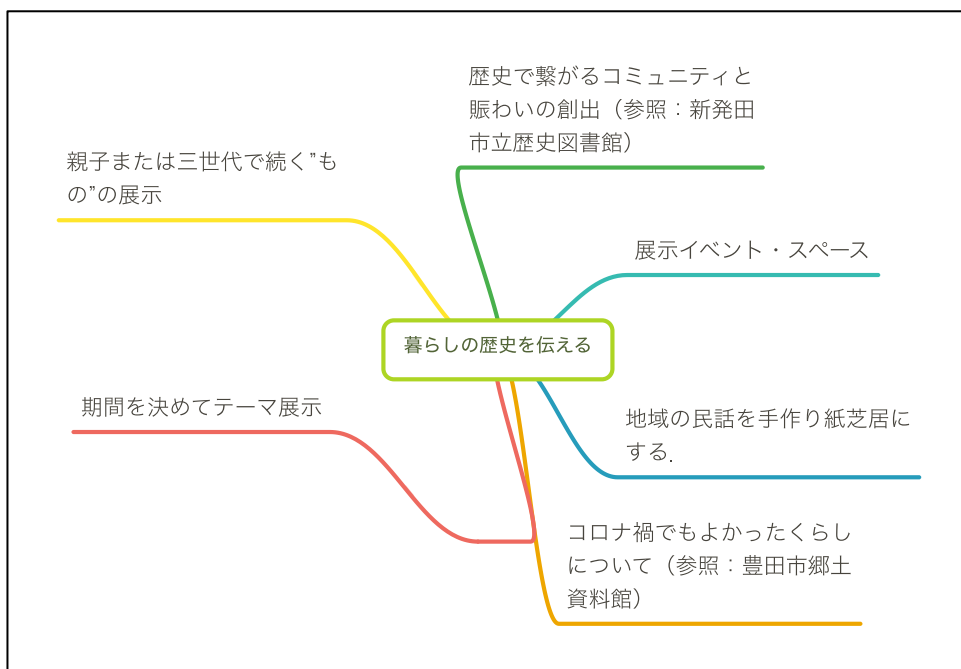


図 7 リラックス

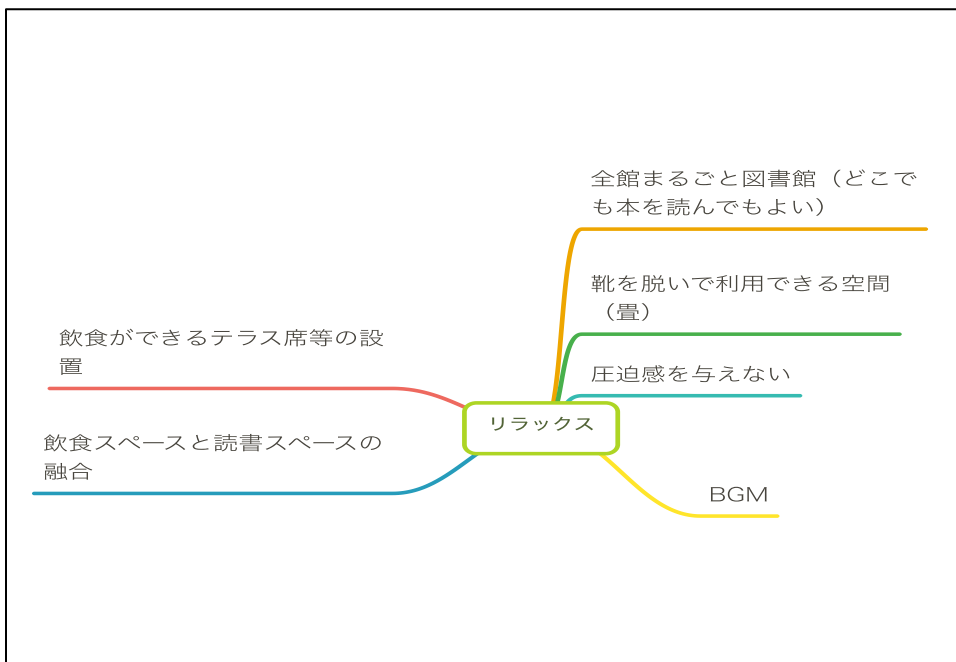


図 4～図 7 は 4 つのサブコンセプトと想定されるサービス (ソフト)、図書館の施設や設備 (ハード) を提案している。「子育ての場」は大森町の人口構成

の変化に対応して、子どもたちと保護者を支援することを目的としている。「交流の場」は市民、観光客、学生の3者が交流する場を作ることが目的である。

「暮らしの歴史を伝える」というコンセプトは、大森町の近現代の暮らしを展示する。それによって町の豊かな文化や暮らしを県内外に発信するという目的が込められている。最後の「リラックス」は市民や観光客がお茶を飲んだり、本を読んだりして、寛いでもらうことを目的としている。

図書館コンセプトはその後、大森まちなか図書館基本計画（案）（大森まちなか図書館開設準備チーム作成 2021.9）に正式に採用された。（図8参照）

4) 資料収集方針の策定

図書館情報学研究室からの提案で、大森まちなか図書館の蔵書構築は「まちライブラリー」¹⁾というシステムで運営する。

まちライブラリーとは市民が本を持ち寄って蔵書を構成する図書館である。本を持ち寄るイベントを「植本祭」（「植樹祭」からヒントを得ている）という。

「植本祭」ではテーマを決めて市民が本と持ち寄り、紹介する。これによって本を通じた交流が行われ、市民コミュニティが形成されるようになる。

研究室では2021年11～12月の2ヶ月間にわたり資料収集方針の研究を行った。（表1⑤⑥）

資料収集方針とは蔵書構成の基本となる文書である。蔵書の理念や目的、資料の種類、収集方法を定める。これによって図書館のコンセプトに沿った蔵書を構成することができる。

作成の準備作業として以下の調査を実施した。

- ・大森町の訪問調査
- ・大森町なか図書館基本計画案の参照と分析
- ・大森町の人口構成・主要産業・教育環境・読書環境
- ・大田市立中央図書館の蔵書構成やサービス（見学）

作成は2019年度入学のゼミ学生である。以下、資料収集方針案を掲載する。

資料収集方針案

2021年12月17日

作成：図書館情報学研究室

地域文化学科3年 村上翔太 奥田尚緒 長島美月 足立弥祐

取りまとめ：木内公一郎

大森まちなか図書館 資料収集方針（案）

1. 目的 この資料収集方針は図書館の基本理念をもとに、大森まちなか図書

館が収集する資料の区分、収集の方法を定めるものとする。

2. 図書館の基本理念

- ①地域住民とともにつくる、大森町の豊かな文化とくらしを支える交流拠点
- ②図書館の運営や活動を通じて人とつながり、地域を深く知る、現場実践型教育の場
- ③世界遺産石見銀山とSDGs 地方創生の研究学習拠点

3. 蔵書構成の基本的な考え方

- ①市民および観光客にとって必要な資料や情報の収集と提供
- ②石見銀山研究用資料の収集と提供

4. 資料区分

①大森町関連資料

- 1) 観光客向け資料（地図、名産品、店舗情報など）
- 2) 世界遺産石見銀山研究用資料
- 3) 古民家の保存・活用
- 4) 街並みの保存・活用
- 5) 行政資料（大田市も含む）

②実用書

- 1) 経済・経営・産業（会社経営、起業、地域振興、マーケティング、観光、農業）
- 2) くらし（衣食住・健康・教育・慣習・情報技術）
- 3) 趣味（料理・手芸・園芸・ペット・文化芸術・美容・ファッション など）

③児童書

④ヤングアダルト図書（中学・高校生向け）

⑤漫画

⑥文学（大森町関連）

⑦SDGsに関連する資料

健康・福祉、教育、働き方、産業、技術革新、まちづくりなど

5. 資料収集の方法

- ① 植本祭
- ② 購入
- ③ 寄贈

大森町関連資料、観光客向けのパンフレット・リーフレットは積極的に関係機関に寄贈を依頼する。以上

この資料収集方針案は島根県立大学の「大森まちなか図書館開設準備チー

ム」に現在提案中である。

4. 研究活動の成果と今後の方向性

成果の一つは、ほとんど白紙状態の図書館構想を研究室の活動によって、具体化したことである。二つめは、学生が調査・研究活動に積極的に関わり、「図書館づくり」の方法を身につけたことである。特に2018年度入学のゼミ学生6名は図書館コンセプト作成に大きく貢献した。そして大森町に主体的に関わることによって「研究」への興味が高まり、卒論へのモチベーションが向上した。そしてその流れは2019年度入学のゼミ学生4名に引き継がれている。

今後も開館までの準備、開館後の業務支援に研究室として関わっていく予定である。(了)

図8 大森まちなか図書館基本計画(案)(大森まちなか図書館開設準備チーム作成 2021.9)

大森まちなか図書館基本計画(案)

コンセプト

- 図書館という空間で、県立大学は地域とどんな関係性を築くのか。学生は何を学び、体験するのか。

地域住民とともにつくる、大森の豊かな文化と暮らしを支える交流拠点

- 交流の場 日頃から住民に足を運んでもらえる仕掛け コミュニティの形成 交流型観光
- 近代から現代までの暮らしの歴史を伝える場
- 子育ての場 託児サービス、寝そべって読書、読み聞かせ
- リラクゼーションの場 飲食と読書の融合、全館丸ごと図書館、子供から親世代、高齢者まで誰もが集える居場所

図書館の運営や活動を通じて人とつながり、地域を深く知る、現場実践型教育の場

- 「まちライブラリー」の理念にそった運営 本とおして人とつながり、知と出会う
- 地域の歴史を学び、地域の今を体感する
- マネジメント、地域づくりの実践、図書館業務の実践
- 地元高校(大田高校、遼南高校など)との連携、交流

世界遺産石見銀山とSDGs 地方創生の研究学習拠点

- 石見銀山の歴史的価値や文化観光的活用法の研究と応用
- 世界遺産の地で持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ
- 持続可能な開発のための教育(ESD)の研究と実践

開館時間

- 地域住民の生活の延長上で利用できる時間帯、観光客にとっても利用しやすく
- 複合施設に入居する他事業者、地域住民との調整が必要

木曜日～日曜日 13:00～18:00(土曜日曜は10:00～17:00) ※夏休み期間、冬季は変更

運営体制(関係機関連絡会議)

なかわら館、石見銀山資料館、石見銀山世界遺産センター、宗岡家ほか

事業内容

ライブラリー

- ブックまぶ(仮)
 - 絵本、児童書や企画展図書、石見銀山資料等を中心に配架
 - ランプを手に宝物の冊と出会うコンセプト
- お座敷ライブラリー(仮)
 - 住民や旅行者が持ち寄った本を配架
 - 本とおして人とつながるコンセプト

ラーニングcommons

- 使い方を限定せず利用者のアイデアを引き出す空白空間
- (和室) おはなしレストラン、ワークショップなど
- (ギャラリー) 企画展、研究発表など

会議室①②

- ゼミ活動、寄附講座、公開講座など

学生の関わりかた

- 図書館業務の実践(本の収集・配架・整理/貸出返却など)
- イベントの企画運営/情報発信
- おはなしレストラン、ボランティア
- 地域づくりの授業・ゼミ活動

開設までの取り組み

- 地域への説明、アンケート、ワークショップなどにより住民意見を図書館運営に反映
- けんたい協力サポーターの募集、サポーター会議を開催し協働で開設準備を進める
- おはなしレストラン、植本祭などを先行実施し図書館開設の機運を高める

【注】

1) まちライブラリーについては次の図書が詳しい。磯井純允「本で人をつなぐまちライブラリーのつくりかた」学芸出版社、2015。